

# さくらクォーターリー・レビュー The Sakura Quarterly Review

順天堂大学さくらキャンパス図書新聞

Volume 2. Winter & Spring 2020

## BOOK REVIEW

### 『錯覚の科学』（さくらキャンパス所蔵）

クリストファー・チャプリス、ダニエル・シモンズ（著）  
木村博江（訳）  
文春文庫 2014年

「すべての人間は、生まれつき、知ることを欲する」（アリストテレス）と言います。「知る」ためには、感覚器官を通じた自身の経験や読書や伝聞を通して他者の経験が必須となります。しかし、もしこの「経験の知覚」が実際とは異なるものだとしたら、何をよすがとすれば良いのでしょうか？

この本では「この世は錯覚に満ち溢れている」ことを、記憶・自信・知識・原因・可能性の各側面について、事例を挙げながら認知科学的に説明しています。掲載されている例は現実起きた事件・出来事ですが、アメリカの読者を中心としているため少々分かりづらいかもかもしれません。しかし、全て有名な事件・出来事なので、これを機に調べてみるのも良いのではないのでしょうか。本の装丁は文庫本でペーパーバックですが、300頁を超える手ごたえのある本です。この本を読めば錯覚を避けることができるわけではありませんが、より注意深くものごとを観察し、考えるきっかけにはなると思います。また、翻訳者が優れた仕事をしてくれており、翻訳本にありがちな妙な日本語に悩まされることもなく、スムーズに読めます。

アイデンティティが完成する時期の学生のみなさんに自分について今一度考え直すためにも読んで欲しい本の一冊です。読む前と読んだ後とは、世の中が違って見えるかも知れません。

（スポーツ健康科学部 神原直幸）



### 『すべてがFになる』（さくらキャンパス所蔵）

森博嗣（著）講談社 1998年

天才と聞いて誰が頭に浮かぶだろうか。アインシュタイン、モーツァルト、ピカソ・・・オリンピック金メダリストが思い浮かんだ人もいるかもしれない。これら偉人に対して天才という言葉を用いるのはまだよいとしても、近年あまりに安易に天才という言葉が使われすぎているように思う。暗算が早い人、見たものをすべて映像記憶できる人、運動能力の高い人・・・確かにヒトの平均的な能力よりは優れているかもしれないが、電卓、カメラ、ロボットでもできることをやっているだけで、電卓は天才ではない。かくいう私も自分の子供達を天才だと信じているけれど。

ここで紹介している森博嗣の「すべてがFになる」からはじまるS&Mシリーズ、Vシリーズ、そして四季シリーズにはつい天才と呼びたくなってしまふような才能あふれる人達が多数登場するが、彼らは天才ではない。天才はあくまで1人である。もしあなたが上記シリーズを読破したなら間違いなくあなたの中にも「安易に天才という言葉を使うな！」そんな気持ちが芽生えると思う。天才について熱く語ったが、このシリーズがミステリーに分類されることは間違いない。人が死に、その事件が解決する。でも読み終えた後に残るのは数多あるミステリーのような事件解決の爽快感や安堵感ではなく、天才への畏怖や、事件のトリックに驚くというより著者にひっかけられたという悔しさ、など様々で、大学図書館らしく“学問の魅力”もそこに含まれる。大学教員としては、ミステリーで学問の魅力が伝えられるのに、もし講義で学問の魅力が伝えられていなかったらかなりまずいだろうなと考えさせられるシリーズでもある。

日々のニュースがそうであるように、多くのミステリーでは、殺人事件は非日常の珍しいことであり、だれもが興味を示すこととして扱われ、主人公も例に漏れず事件解決へ向けノリノリである。本シリーズの事件を解決する主人公の多くが、学問の世界にはもっと珍しく面白いことはたくさんあるということを知っていて、殺人事件はそれらと比べると大して珍しくない興味を示すほどの価値はないこと、と捉えている点も本シリーズが

ミステリーの枠に留まらず、他作品と一線を画す理由の1つである。

1冊の本で比べれば、もしかしたらこの本を超える面白いミステリー作品が世界にあるかもしれない。しかしあなたが四季シリーズを最後まで読み終えた後では、いかなる言語においてもこれを超えるミステリー作品はないと確信し、G、X、Zシリーズを楽しみつつ、私のように誰からも頼まれていないのに、聖書の教えに従う宣教師のように熱心に本シリーズの魅力を人々に伝えていることと思う。

（医学部 一般教育 石原量）



## 『選択の科学』

The Art of Choosing by Sheena Iyengar

シーナ・アイエンガー (著) 桜井祐子 (訳)

文春文庫 2014年

誰の人生にも大きな選択をしなければならない時がある。あなたはそうした時、即決するタイプ、それとも慎重に決めるタイプのどちらだろうか。私は大きな選択を迫られると、なかなか決められず考え込んでしまうタイプである。「後で後悔したくないから」という思いが強いので、選択肢に関する情報を集め、それぞれの良い点悪い点を書き出し、とにかく一生懸命考える。

そう、「一生懸命」考えることが最善の選択への道と信じてやってきたわけだが、選択とはそんな単純なものではないことを、この本を読んで思い知らされた。「客観的に正しいと思われることをすべてきちんとしてやった」上での選択だったとしても、人の「幸せ」などの感情面が関係する選択の場合、感情面は具体的に考慮すべき項目が明確でないため、選択する際に軽視されがちになる。そのため、結果的に満足度が低い選択をしてしまうことがあるとアイエンガー教授は指摘する。

一方、「直観」に頼りすぎるのもリスクがある。たとえばこの本で紹介される研究のひとつに「吊り橋実験」というものがある。頑丈で川に近いところにかかる落ちる心配のない橋と、急流のはるか上にかけられ下手をしたら落ちるかもしれないような揺れる吊り橋のそれぞれ真ん中で、魅力的な女性実験者が男性観光客に声をかけて実験への協力を依頼する。実験終了後、研究の詳しい目的を知りたければ電話してくださいと、女性実験者は男性観光客に意味ありげに言いながら紙切れを手渡す。その後、女性実験者に実際に電話をかけてきた人の数は、危険な吊り橋を渡った観光客の方がもう一方の橋に比べて多いという結果になった。この実験の真の目的は橋の上でやったタスクの結果を調べるのではなく、人間の脳が気持ちの高ぶりをそれ以外の感情と混同しやすいかを調査することであった。つまり、一歩間違えると落ちそうな橋を進む観光客の気持ちが高ぶっている時に、たまたま女性に出会うと、自分の気持ちの高ぶりは川に落ちる恐怖からではなく、この女性に魅かれていたからだと思ってしまう、女性に電話をかけるというわけだ。

これ以外にも多種多様なものが人間の選択に影響を与える様子が紹介されており、本を読めば読むほど、満足のゆく選択をするのがいかに難しいか実感させられる。毎日朝起きてから寝るまで多くの選択をしながら我々は生きている。それゆえ、アイエンガー教授は、選択が我々を形づくり人生を切りひらく力になると、選択のもつ可能性を強調する。そして後悔しない選択をするにはどうすればよいかについてのヒントも示してくれている。ただ、選択を意識し、自分の行動を振り返ることで、自分の気がつかない一面を発見できる。これこそが、この本の大きな魅力だと私は思う。

(スポーツ健康科学部 堀 智子)



## 『外国語上達法』

(岩波新書 黄版329) (さくらキャンパス所蔵)

千野栄一 (著)

岩波書店 1986年

根っから語学が苦手である。履歴書に「TOEIC800点」や「仏検1級」などと書ける人が心底羨ましい。「羨ましいなら勉強すればいいじゃないですか」と英文学がご専門である本紙の編集長はおっしゃるかもしれないが、それが出来ていれば今頃私はC先生やR先生と「Hey! What's up?」なんて具合に日々軽妙洒落な会話を楽しんでいるはずである。現実には英語が堪能な教務課の諸氏のお力を借りて、「追試というはですね…」などと無味乾燥な会話に勤しむばかりである(勿論私は日本語だ)。

そんな私も学生時代には人並みに語学の勉強をしてみようなどと思ったことがあり、そのとき手に取ったのが本書である。少しは外国語を勉強するコツを掴めるのではないかと殊勝にも思ったのだ。

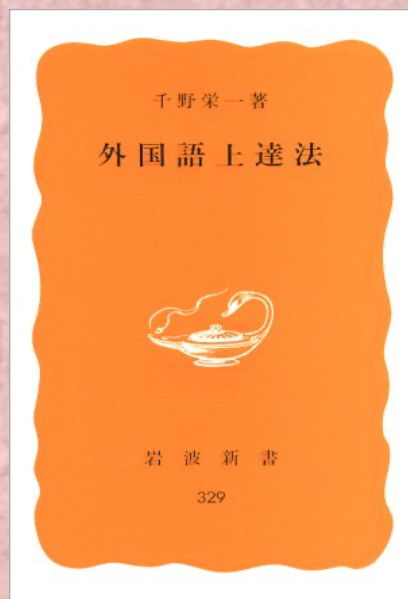
著者の千野栄一氏は既に鬼籍に入られているが、東京大ロシア語科を卒業後チェコへ留学し、彼の地で学ばれた言語学者であった。チェコ語は勿論のこと、セルビア語やブルガリア語などのスラヴ諸語にも通じている。ゆえにさまざまな学習法を案内するその例として、東欧の国々やスラヴ諸語の特徴、またそれらの言語を母語話者も驚嘆するほどに習得してしまった人たちの魅力的なエピソードが語られる。

読み進むうちに、語学の達人たちの逸話にすっかり魅了されてしまった。千野氏がチェコへ留学する際に恩師がドイツ語で書いた推薦状を、日本人が書いたとは知らずに読んだドイツ人の大学院生が、「僕もあと10年くらいしたらこういうふうによく書けるようになるかな」と漏らしたというような、そんな挿話に痛快な気分させられた。そして地道な語学学習を飽かずに繰り返すことで抜きんできた能力を持つに至った人たちの、努力というには楽しげな学習の様子を辿ることで、自分もそんな風に何かを学んでみたいと思ったことをよく憶えている。

「はじめに」において、「外国語の習得にはその習得を容易にするコツがあり、まずそのコツを知ることが大切である。以下にそのコツについて述べることにする」とあるとおり、本書には外国語習得のための多くのアドバイスが記されている。もっと若くて勤勉な人たちが本書の学習法を実践することで、本当に語学の達人になることも夢ではないかもしれない。

不幸にしてこの本に書かれた学習法が肌に合わなかったときには、本紙の編集長があなたに合った外国語上達法のアドバイスをくれるはずである。ですよね、編集長。

(教務課 粕谷 昌史)



# FILM REVIEW

## オススメの映画を教えてください！ No. 1

スポーツ健康科学部 鈴木良雄 先生インタビュー

### 『秒速5センチメートル』 [DVD]

水橋研二、近藤好美 (出演)

新海誠 (監督、原著、脚本)

コミックス・ウェブ・フィルム (DVD) 2007年

さくらQR: タイトルやポスターから新海監督『君の名は』と重なる印象を抱きましたが。

鈴木: 『君の名は』と違うところは、すれ違いの物語なんです。主人公の男女二人は子供の頃からひかれあっているんだけど、中学生になるときに彼女が転校して文通するようになる。引っ越して別れ別れになった後、男の子が彼女に会いに行く場面があるんです。新宿から鈍行を乗り継いで栃木の岩舟まで行くんだけど雪が降ってきて、やっと着いた時には夜。でも彼女は待っていてくれた。ところが思いを書いた手紙は、たどり着くまでに風に飛ばされてしまった。高校生になって携帯メールを書いても、やっぱり送信できない。時間が過ぎても、彼女が忘れられない。そうこうしているうちに、大人になって、都内の踏切で偶然二人はすれ違うんです。気がしているのだろうけど、でも言葉は交わさなくて終わる。

さくらQR: 切ないですね。

鈴木: 後、気になったのはね。岩舟に行く列車の情景が、京成酒々井駅に近づく京成線の車窓の眺めとそっくり！

さくらQR: なんと！

鈴木: この映画を見た後に、京成線に乗って外を眺めているとね。なんだか順大の校舎も、モンサンミッシェルみたいに見えるんですよ。新海誠監督の映像の余韻、マジックというか。

さくらQR: 見慣れた日常を美しい情景に変換できる鈴木先生の眼差しに感

動です。酒々井駅からの眺めを別の視点で楽しめそうです。

鈴木: 『秒速〜』は雪の場面が印象的でしたが。比較対象として同じ監督の『言の葉の庭』の雨の描かれ方も忘れ難いですね。色使いが独特で、海の絵でこういう効果を使った画家がいましたね。ラッセンでしたっけ。暗闇に入る光、雨に濡れた植物の色彩も鮮やかで、フランスのモネの睡蓮の絵画も彷彿とさせられます。とにかくハッとさせられる色使い、絵が美しい。ジブリの宮崎駿監督作品と比較して、新海誠監督は、光と影の使い方に強いこだわりを感じます。登場人物の感情が交差する時、映像でも光と影が交差している。それが見るものの心に情景となって残る。

さくらQR: 今回、インタビュアーの特権で、先生に実際に画面を見せていただきながらお話を伺うことができました。登場人物の心情を映し出す背景の光と影に注目して観ることができそうです。ありがとうございました。



## オススメの本を教えてください！ No. 2

学術メディアセンター 功刀みさ氏 インタビュー

～仕掛け絵本専門店「メッゲンドルファー」との出会い～

さくらQR: この度は素敵な本屋さんを教えてください、ありがとうございます。功刀さんがメッゲンドルファー、そして仕掛け絵本に魅了された経緯を教えてください。

功刀: 妹が素敵な仕掛け絵本を購入してきて、興味を持ったのが最初のきっかけでした。沢山取り扱っているところはないのかと思っていた時に知り、鎌倉のお店なら電車でも千葉からも行きやすいので行ってみよう。さくらQR: 仕掛け絵本というと、海外の印象が強いのですが、海外のものですか。

功刀: そうですね、これもロバート・サブダの邦訳です。飛び出す仕掛けの部分、動物たちは前半は彩色されていなくて真っ白なんですけど、最後のページで鮮やかな色があらわれます。



ロバート・サブダ (著)  
『冬のものがたり』わくはじめ (訳) 大日本絵画、2007年

さくらQR: 実際にお店に行ってみて、どのような印象を持たれましたか。

功刀: 私が初めて行った時は、まだ現在の場所ではなくて旧店舗の方でした。小さなお店でしたが、入ってすぐに夢中になってしまいました。店内を何周もして、開店から何時間も滞在してしまいました。とても居心地の良い空間で、そこにいるだけで心躍るような。迷いに迷って、5冊ほど購入してしまっただけの記憶があります。

さくらQR: 5冊もですか！

功刀: 自分用には、華やかに花々が飛び出す、百合の花が印象的な本や、甥っ子姪っ子にはクリスマスのプレゼントにキャンディやお菓子がモチーフの本を買って。仕掛け絵本って、ただ絵が飛び出すだけじゃないんです。見る角度によって画像が変化するもの、パペットと合体しているもの、あとはドイツの古い劇場を模したもの…。店内のどの本も、手にとって広げてみたくなってしまおう。

さくらQR: 功刀さんにとって、仕掛け絵本の楽しみ方とはどのようなものでしょう。仕掛け絵本は文字が読めない子供のためのもので、大人向けではないという先入観を持っている人も多いかもしれません。

功刀: 歴史的に、そうして発展してきた面はあるでしょう。ただ、大人だからもう手に取らないというのはもったいない。私はこの、立体的に紙を組んで、その細工というか造形のラクラクにとっても惹かれるんです。閉じられて平面的に横たわる本のページを開いた瞬間、目の前に広がる物語とビジュアルが同時に飛び込んでくる作品世界に魅了されています。

さくらQR: 確かに、本日お持ちいただいたサブダの絵本を見て、他にもどんな種類の仕掛け絵本があるのだろうかと興味をそそられます。

功刀: 移転後の、新しい店舗にも先日行ってきました。天井が高くてとても素敵な空間で。また長時間滞在して、購入した仕掛け絵本は、ビバルディの音楽「四季」がページを開くと流れて、音楽とイラスト、物語がリンクして作品世界が展開されるんです。

さくらQR: 触感だけではなく、聴覚や視覚にも訴えて来る。仕掛け絵本の世界は奥が深いですね。是非メッゲンドルファーに行って仕掛け絵本を探したいです！

功刀: 通販も受け付けているようですが、是非足を運んでみることをお勧めします。品揃えが充実しているのは勿論なのですが、とても居心地の良い、温かくほっとする雰囲気とワクワクが同居している素敵なお店なんです。

さくらQR: 近々行ってみたいと思います。ありがとうございました！

## 本をめぐる旅 第一回

### しかけ絵本専門店

### メグゲンドルファー(鎌倉)

〒248-0014

鎌倉市由比ガ浜2-9-61

鎌倉駅より徒歩10分

営業時間：10:00～18:00

定休日：水曜日



今回は、学術メディアセンターの功町みさお氏お薦めのしかけ絵本専門店、メグゲンドルファーに取材に行ってきました。嵐田ご夫妻が始め、その後息子さんが加わって家族で営むお店は、ゆっくりと本を手にとって選ぶ喜びを感じられる居心地の良い空間です。

さくらQR: 一步店内に入って、印象的なのがこの吹き抜けのような高い天井です。自然光が入って、本が一斉に出迎えてくれるような。ただ本の背表紙が規則的に並んでいるフランチャイズの大型書店とは趣が全く違いますね。



嵐田氏: 棚は勿論後から作ったものですが、この建物自体は元からあったものを借りている状態です。妻がこの物件を気に入っていて、少し大きすぎる空間じゃないかと最初は思ったのですが。実際に、床から天井まで本に囲まれているような感じにしたいな、と。飛び出す絵本は、やはり開いた状態で飾りたいです。飛び出す絵本のオブジェも手作りですね。

さくらQR: 重厚な木の柱や、回廊のように視界いっぱいには本がある様子は圧巻です。でも通路は比較的ゆったりと取られていて、すれ違ったり、ベビーカーも通ることができるのはとても良いですね。実際に、本を手にとってゆっくりと選ぶことができます。

嵐田氏: そう、やはり手にとって体験してもらいたいですから。しかけ絵本は。

さくらQR: とても素敵な店内で、つい長居してしまいたくなりますが、今後も新しい企画など考えていらっしゃるのでしょうか。

嵐田氏: 2階部分を生かしていないので。今後、活用できないかと考えています。

さくらQR: 2階、確かに気になります。ロンドンにDaunt Booksという趣のある書店があるのですが、その店内を思い出してしまいました。やはり古い木理を生かした回廊型の2階部分が、素敵なんです。

嵐田氏: それは興味深いですね。ポルトガルにある、入場料が必要なレロ書店をご存知ですか。世界で最も美しい書店と言われているんです。そこも回廊型ですね。世界的に書店の業界も厳しくなっていますから、私たちも工夫は必要だと感じていますね。

さくらQR: 電子本が普及し、書店で思いがけない作品を手取るような、本との触れ合いや偶然の出会いを楽しむ機会は減っていますね。

嵐田氏: やはり書店も、個性を出して行かなければいけない。

さくらQR: 日本ではしかけ絵本の専門店というメグゲンドルファーさん以外に思いつかないのですが。その点でも、唯一の存在ですよね。

嵐田氏: 専門にやっている、ということでしたら一番古いかもしれませんね。私はしかけ絵本を扱う出版社にもともと勤務していたのですが、定年を迎える前、50代の頃に夫婦で何をしようかと話し合った時に、そういえば日本には専門店がないね、と。それがきっかけでした。魅力のあるしかけ絵本を専門に扱う書店をやる。私は書店業界が厳しくなる状況はわかっていて、尻込みしていましたが、妻の情熱に押され、ふたりで始めて、ここまで来た感じですね。最初は小さなショールームを間借りして、週に三日ほどの営業形態で。そこから少しずつ今の形になりました。全国からお客様がきてくれるのだから、たたむわけには行かないと。

さくらQR: 実は、今日の天気の良いせいもあるでしょうけれども、こんなに空いている鎌倉は初めてでびっくりしたんです。でもこの店内にはこんなにお客様が。

嵐田氏: これがしかけ絵本の魅力だと思うんです。誰かに差し上げて、喜んで顔を見て。また誰かを喜ばせようと、受け取った人が本を探しにきてくれる。

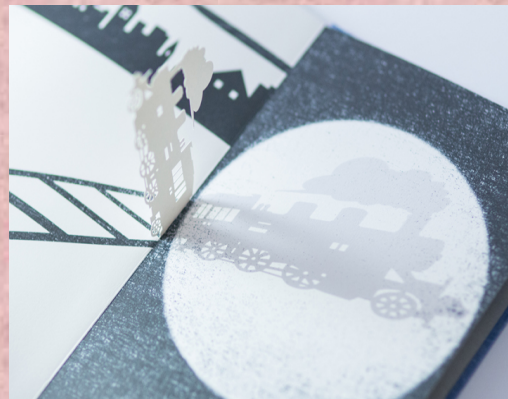
さくらQR: しかけ絵本の魅力も勿論大きいでしょうけれども。このお店で買った、この素敵な空間で手にとって購入したという印象が強いのではないかと思います。本って、読み終わった後に内容は記憶に残ってもどの書店で買ったという記憶はあまり残らない。でも、メグゲンドルファーさんで買った本は、その店内の眺めと共に買い物記憶も大切に残る、稀有な店だと思います。ありがとうございました。



さくらQRスタッフも懐かしい絵本を見つけて大喜び!



嵐田氏。仕掛け絵本教室も開催しています。



世界で最も美しい絵本コンクール銅賞受賞の仕掛け絵本『モーションシルエット』かじわらめぐみ、にいじまたつこ 作 グラフィック社。繊細な切り絵が映し出す影が美しい本です。

Vol.2 編集スタッフ: 八田颯起、松下公美、宮原風沙 (鎌倉メグゲンドルファー取材)

編集後記: ご寄稿くださった皆様、本当に有難うございました。メグゲンドルファーで購入した『モーションシルエット』や嵐田一平氏による美しい『段葛』は庄子ひとみ研究室に実物があります。よかったら手にとってみてください。(庄子ひとみ)

## 学術メディアセンターからのお知らせ

学術メディアセンター入口脇に電子掲示板が設置されました。

新着図書案内など配信しております。

創刊号にて紹介された図書『Shoe dog: 靴にすべてを』、『子供が「読書」に夢中になる魔法の授業』が入りました。どうぞご利用ください。

春季休業中の為4月9日(木)まで短縮開館を行っております。ご注意下さい。

平日 9:00-17:00 土 9:00-13:00

## 原稿募集!

おすすめの本や映画をぜひ紹介してください。新刊/新作である必要はありません。原稿はWordファイルで作成し、[hi-shoji@juntendo.ac.jp](mailto:hi-shoji@juntendo.ac.jp) さくらクォーター・レビュー編集部(庄子ひとみ研究室)宛に添付ファイルで送信してください。